

# 「平成23年度における若年層献血意識調査業務」仕様書

## 1 調査の目的

献血者数については、これまで減少傾向が引き続いてきたところであるが、平成20年以降、増加に転じ、これまでの献血者確保対策に一定の効果がみられているところである。

しかしながら、10～20歳代の若年層の献血者数に目を転じてみると、同年代の人口減少の割合を上回る割合で減少し続け、依然として若年層の献血離れは深刻なものであり、将来の輸血医療に支障が生じることが懸念されていることから、若年層に対しての普及、啓発をこれまで以上に重点的・効率的に行う必要性が生じている。

そのため、若年層の献血に対する意識調査を実施し、平成17年度と平成20年度に行った同様の調査結果との比較を行うことにより、若年層の献血に対する意識等に変化があるのかどうかを検証し、検証結果を今後の若年層に対する献血推進のあり方の検討に資することを目的とする。

## 2 業務の範囲及び内容

### (1) 調査の範囲

- ・ 全国の若年層（16～29歳男女）の献血への関心度や献血へのイメージを把握する。
- ・ 若年層の献血に関する認知度を把握する。
- ・ 若年層が献血を行った時期やきっかけを把握する。

### (2) 調査方法

- ・ 調査票「献血未経験者用」及び「献血経験者用」（（別添1）参考：平成20年度若年層意識調査票）を使用し、インターネット上で調査を行うこと。  
（平成23年度若年層意識調査票は9月中旬に落札業者へ提供）
- ・ 設問数は「献血未経験者」及び「献血経験者」で各30問程度。
- ・ 基本調査項目の6問（回答者の居住地・年齢・性別等）は除く。

### (3) 集計・分析方法

- ・ 得られたデータは、集計表やグラフ等を使用して調査結果を分析し、報告書と概要レポートを作成すること。  
（平成20年度調査報告書（別添2）及び概要（別添3）と同等のものを作成すること）。
- ・ 平成17年度及び20年度に行った若年層献血意識調査と同じ設問については、結果の比較を行うこと。
- ・ 平成20年度の調査結果報告書において、関連づけて集計している設問については、平成23年度も同様の扱いとする。

## 3 調査対象

- ・ 全国の若年層（16～29歳）
- ・ 年齢及び男女に偏りがないように留意すること。
- ・ 東日本大震災の被災地における調査については、当省医薬食品局血液対策課の指示に従うこと。

(内訳)

- 若年層（16～29歳）献血未経験者、献血経験者それぞれ5,000客体。
- 全国を以下の7ブロックに分け、各ブロックの若年層人口（16～29歳）の全国に占める割合（請負業者が最新の割合を調査）に応じブロックごとに客体数を決定。（各ブロックにおける献血未経験者、献血経験者の客体数は同数とする。）

ブロック①：北海道

ブロック②：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

ブロック③：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨

ブロック④：富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重

ブロック⑤：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

ブロック⑥：鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

ブロック⑦：福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

#### 4 調査期間

平成23年9月下旬

#### 5 成果物

- ・報告書、概要レポート 各30部
- ・調査結果データ、報告書の電子媒体（納入形態はCD又はDVD）

納入場所：厚生労働省医薬食品局血液対策課

納入期限：平成23年10月17日（月）

#### 6 特記事項

- (1) 本業務に係る詳細については、この仕様書に定めるものの他、当省担当者の指示に従うこと。
- (2) 本業務遂行によって知り得た情報等については、厚生労働省の許可なく開示等してはならない。
- (3) 請負業者に対しては、平成17年度及び20年度調査報告書（電子媒体）を別途提供する。

#### 7 問い合わせ先

本業務に関して、不明な点が生じた場合には、下記担当まで照会すること。

厚生労働省医薬食品局血液対策課 担当： 伯野、馬場

電話 03-5253-1111（内線2904、2905）

# 調査票

## <基本調査項目>

基1 現在お住まいの地域は、以下のうちどちらになりますか。

1. 北海道
2. 東北
3. 関東甲信越
4. 東海北陸
5. 近畿
6. 中国・四国
7. 九州・沖縄

基2 現在おいくつですか。

1. 15歳以下 →対象外
2. 16～17歳
3. 18～19歳
4. 20～24歳
5. 25～29歳
6. 30歳以上 →対象外

基3 あなたの性別を教えてください。

1. 男性
2. 女性

基4 現在のご職業を教えてください。

1. 高校生
2. 大学生・専門学校生
3. 会社員
4. 公務員
5. 自営業
6. 専業主婦
7. その他 ( )

基5 あなたは学業及び職業で、医療関係に携わっていますか。

1. はい
2. いいえ

基6 あなたは、今までに「献血」をされたことがありますか。

1. ある → 献血経験者用調査票へ
2. ない → 献血未経験者用調査票へ

## 若年層献血意識調査

問1 献血について知っていますか。

1. よく知っている 2. ある程度知っている 3. まったく知らない

問2 献血の種類(※)を知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※ …献血の種類には、すべての血液の成分を採血する全血献血(200mLまたは400mL)と、必要な血液の成分だけを採血する成分献血(血漿成分献血または血小板成分献血)があります。

問3 献血がどこでできるか知っていますか。(※)

1. 知っている 2. ある程度知っている 3. 知らない

※ …献血は、①献血ルーム ②献血バス ③血液センター ④会社や団体での出張献血ですることができます。

問4 献血について関心がありますか。

1. 非常に関心がある 2. 関心がある 3. 特に関心がない 4. 全く関心がない

問5 献血は患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問6 献血された輸血用血液製剤の有効期間は短く、絶えず献血が必要なこと知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※ …血液製剤の有効期間は一番短い血小板製剤で採血後4日間、赤血球製剤は21日間です。

問7 献血された輸血用血液製剤の使い道は、交通事故などの大量出血時よりもがんなどの病気の治療に使われることが圧倒的に多いことを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※ …約8割が病気(うちがんの治療3割)に使われ、交通事故などによる輸血は約1割程度。

問8 輸血の医療を受けられた多くの患者さんは、献血をしてくれた方に感謝(献血してくれてありがとう)の気持ちを持っています。そのような声を目や耳にしたことはありますか。

1. ある 2. ない 3. おぼえていない

問9 献血へ協力してくださる若い方の数が、近年大幅に減っています(※)。知っていましたか。

1. 知っている 2. 知らない

※ …最近5年間で、20代の献血者数は140万人から108万人(23%減)に、10代の献血者数は48万人から29万人(40%減)も減少しています。

問10 献血に関して、どのような広報媒体を見たこと(聞いたこと)がありますか(複数回答可)。

1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞  
5. 街頭での呼びかけ 6. 献血ルーム前の看板・表示 7. チラシの配布  
8. ポスターの掲示 9. 献血関係のイベント 10. 自治体の広報誌 11. 雑誌等  
12. インターネット 13. 献血バス  
14. その他( )  
15. 何かで見た(聞いた)が、何の媒体か覚えていない  
16. 見たこと(聞いたこと)がない

問11 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか(複数回答可)。

1. テレビ
2. FM放送
3. その他のラジオ放送
4. 新聞
5. 雑誌
6. 自治体の広報誌
7. インターネット
8. 携帯電話
9. ポスター
10. その他 ( )

問 12 厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

問 13 献血に関するキャンペーンを知っていますか。

(毎年7月：愛の血液助け合い運動 毎年1～2月：「はたちの献血」キャンペーン)

1. 知っている
2. 知らない

問 14 平成2年から、全国の高校3年生を対象に、献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

1. 保健体育の授業で使用した
2. 他の授業で使用した
3. 配布されただけ
4. 知らない

※ 参考 (平成23年版 高校生副読本「HOP STEP JUMP」→

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/23/index.html> をご覧ください)

問 15 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

問 16 血液製剤 (※) は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

※…重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ58%台である。

問 17 献血ルームのイメージを教えてください。

1. 明るい
2. ふつう
3. 暗い
4. わからない

問 18 献血したことがないのはどのような理由からですか。

理由の大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた
2. 献血している所に入りづらかったから
3. 呼び込みが強引で嫌だったから
4. 献血場所が遠いので面倒だから
5. 近くに献血する場所や機会がなかったから
6. どこで献血ができるか分からない
7. 時間がかかりそうだから
8. 忙しくて献血する時間がなかったから
9. 自分が献血しなくても誰かがやると思ったから
10. 自分の血液が役に立たないと思ったから
11. 血液が無駄にされていると聞いたから
12. 針を刺すのが痛くて嫌だから
13. なんとなく不安だから
14. 健康上出来ないと思ったから
15. 病気がうつると思ったから
16. 献血すると言ったら、友人や家族からとめられた
17. 血を採られるという感じが嫌だ
18. 恐怖心
19. 職員の態度が悪いので献血したくない
20. 献血する意志がない

21. 海外渡航歴等による献血制限で献血したくてもできない
22. 薬を服用しているので献血ができない
23. その他
24. わからない

1 番目  2 番目  3 番目

23.その他を選んだ場合の具体的な理由

問 19 あなたが献血するきっかけとなり得る項目を選択してください。  
きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。  
なお、13、14 番を選択した方は、具体例を教えてください。

1. 家族や友人などから勧められた
2. 献血しているところが入りやすい雰囲気になった
3. 近くに献血する場所ができた（献血ルーム）
4. 近くに献血する場所ができた（献血バスまたは出張献血）
5. キャンペーンやイベント等により献血が身近に感じられるようになった
6. 好きなタレントがキャンペーンに起用されていた
7. 献血の重要性が明確になった
8. 血液が無駄になってないことが分かった
9. 針が細くなった
10. 針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された（麻酔など）
11. 献血で病気がうつることはないと思った
12. 献血ルームの受付時間が長くなった
13. 献血したときの処遇品（記念品）が良くなった
14. 献血ルームのサービスが良くなった
15. 献血が自分の健康管理の役に立つようになった
16. 職員の態度が良くなった
17. 海外渡航歴等の献血制限が解除された
18. 献血が健康にほとんど害がないということが分かった
19. 献血できる場所が分かった
20. 献血は絶対しない

1 番目  2 番目  3 番目

13. 献血したときの処遇品（記念品）が良くなったを選んだ場合の具体例

14. 献血ルームのサービスが良くなったを選んだ場合の具体例

20. 献血は絶対しないを選んだ場合の理由

**問 20** 仮にあなたが初めて献血する場合、200mLではなく 400mLの献血に抵抗を感じますか。

1. はい    2. どちらかというとはい    3. どちらかというといいえ    4. いいえ

**問 21** ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

1. ある    2. ない    3. おぼえていない

**問 22** あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

1. いる    2. いない    3. わからない

**問 23** 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

画像呈示 (資料)

**問 23-1** 献血の必要性への理解は良くなりましたか。

1. はい    2. どちらかというとはい    3. どちらかというといいえ    4. いいえ

**問 23-2** 今は献血に協力する気持ちはありますか。

1. ある    2. どちらかというとある    3. どちらかというかない    4. ない

**問 23-3** 今後、実際に献血に行きますか。

1. はい    2. どちらかというとはい    3. どちらかというといいえ    4. いいえ

**問 24** 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

以上で献血に関するアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

わが国は、輸血などの血液製剤を献血により安全に安定して国内自給することを目指している世界でも数少ない国です。

今後とも、献血への御理解と御協力をお願いいたします。

なお、最後に、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をどうぞよろしくお願ひします。

プロフィールはこちら → <http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/li.html>

## 若年層献血意識調査

問1 献血は、患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問2 献血された輸血用血液製剤の有効期間は短く、絶えず献血が必要なこと知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※ …血液製剤の有効期間は一番短い血小板製剤で採血後4日間、赤血球製剤は21日間です。

問3 献血された輸血用血液製剤の使い道は、交通事故などの大量出血時よりもがんなどの病気の治療に使われることが圧倒的に多いことを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※ …約8割が病気（うちがんの治療3割）に使われ、交通事故などによる輸血は約1割程度。

問4 輸血の医療を受けられた多くの患者さんは、献血をしてくれた方に感謝（献血してくれてありがとう）の気持ちを持っています。そのような声を目や耳にしたことはありますか。

1. ある 2. ない 3. おぼえていない

問5 献血へ協力してくださる若い方の数が、近年大幅に減っています(※)。知っていましたか。

1. 知っている 2. 知らない

※ 最近5年間で、20代の献血者数は140万人から108万人（23%減）に、10代の献血者数は48万人から29万人（40%減）も減少しています。

問6 献血に関して、どのような広報媒体を見たこと（聞いたことが）ありますか（複数回答可）。

1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞  
5. 街頭での呼びかけ 6. 献血ルーム前の看板・表示 7. チラシの配布  
8. ポスターの掲示 9. 献血関係のイベント 10. 自治体の広報誌 11. 雑誌等  
12. インターネット 13. 献血バス  
14. その他（ ）  
15. 何かで見た（聞いた）が、何の媒体か覚えていない  
16. 見たこと（聞いたこと）がない

問7 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか（複数回答可）。

1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞 5. 雑誌  
6. 自治体の広報誌 7. インターネット 8. 携帯電話 9. ポスター  
10. その他（ ）

問8 厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問9 献血に関するキャンペーンを知っていますか。

（毎年7月：愛の血液助け合い運動 毎年1～2月：「はたちの献血」キャンペーン）

1. 知っている 2. 知らない

問10 平成2年から、全国の高校3年生を対象に、献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

1. 保健体育の授業で使用した 2. 他の授業で使用した 3. 配布されただけ  
4. 知らない

※参考（平成23年版 高校生副読本「HOP STEP JUMP」→



問 11 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問 12 血液製剤(※)は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※…重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ58%台である。

問 13 献血ルームのイメージを教えてください。

- |                  |        |        |       |          |
|------------------|--------|--------|-------|----------|
| -1 ルームの雰囲気       | 1. 明るい | 2. ふつう | 3. 暗い | 4. わからない |
| -2 ルームの広さについて    | 1. 広い  | 2. ふつう | 3. 狭い | 4. わからない |
| -3 職員の対応について     | 1. 良い  | 2. ふつう | 3. 悪い | 4. わからない |
| -4 記念品や軽い飲食物について | 1. 良い  | 2. ふつう | 3. 悪い | 4. わからない |

問 14 献血について何か要望又は知りたいことがありますか。(複数回答可)

1. 献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい
2. 献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい
3. 献血で昼休み、夜間などの受付時間を延長してほしい
4. 職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい
5. 献血された血液がどのように使われるのか知りたい
6. 献血したときの処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい
7. 進学や就職時に献血の経験を考慮してほしい
8. 学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい
9. その他 ( )
10. 特にない

問 15 初めて献血をしたのはいつですか。

1. 16~17歳 2. 18~19歳 3. 20~24歳 4. 25歳~29歳

問 16 初めて献血した場所はどこですか。

1. 高校 2. 大学キャンパス又は専門学校・各種学校  
3. 職場 4. 献血バス(1~3以外)  
5. 献血ルーム(血液センター) 6. 覚えていない

問 17 初めての献血の種類は何ですか。

1. 200mL献血 2. 400mL献血 3. 成分献血 4. 覚えていない

問 18 初めての献血で400mL献血をすることをどう思いますか。

1. 特に不安は感じない 2. 不安 3. わからない

2. 不安を選んだ場合の理由

問 19 過去1年間に何回献血しましたか。

(1) 200mL献血

1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回 7. 6回以上

(2) 400mL献血

1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回以上

(3) 成分献血

1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回 7. 6回 8. 7回以上

問 20 今までの献血回数は合計で何回ですか。

1. 1回            2. 2回            3. 3～5回            4. 6～10回            5. 11～20回  
6. 21～30回    7. それ以上

問 21 初めての献血のきっかけになったのは、次のうちどれですか。

きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 自分の血液が役に立ってほしいから
2. 献血は愛に根ざしたものだから
3. 輸血用の血液が不足していると聞いたから
4. 自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから
5. 将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力した
6. 過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから
7. お菓子やジュースがもらえるから
8. ネールアートやマッサージなどのサービスが受けられるから
9. 図書券がもらえたから
10. なんとなく
11. 輸血を受けるときに役立てたいから
12. 家族や友人などに勧められたから
13. 高校に献血バス・出張献血が来たから
14. 大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから
15. 覚えていない

1 番目     2 番目     3 番目

問 22 現在献血するきっかけになっているのは、次のうちどれですか。

きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 自分の血液が役に立ってほしいから
2. 献血は愛に根ざしたものだから
3. 輸血用の血液が不足していると聞いたから
4. 自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから
5. 将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力したい
6. 過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから
7. お菓子やジュースがもらえるから
8. 輸血を受けるときに役立てたいから
9. テレビやDVDを観ることができるから
10. ネールアートやマッサージなどのサービスが受けられるから
11. なんとなく

1 番目     2 番目     3 番目

問 23 ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

1. ある    2. ない    3. おぼえていない

問 24 あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

1. いる    2. いない    3. わからない

問 25 高校での集団献血があれば、その経験がその後に献血する動機付けになるとおもいますか。

1. 非常に有効    2. どちらかと言えば有効    3. あまり関係ない    4. 全く関係ない

問 26 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

問 26-1 献血の必要性への理解は今までと比べ深まりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問 26-2 資料を読んで献血に協力する気持ちは高まりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問 26-3 アンケートへの記載及び資料を読んで献血に行く回数を増やそうと思いましたが。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問 27 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

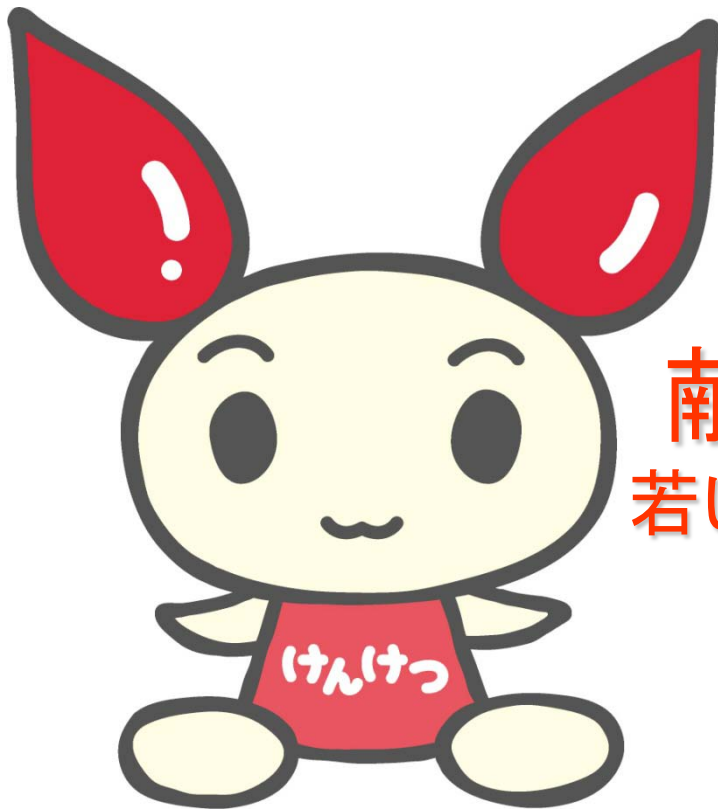
以上で献血に関するアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

わが国は、輸血などの血液製剤を献血により安全に安定して国内自給することを目指している世界でも数少ない国です。

今後とも、献血への御理解と御協力をお願いいたします。

なお、最後に、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をどうぞよろしくお願ひします。

プロフィールはこちら → <http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/li.html>



# 献血にご協力を 若い皆さんの熱い友情を

血液を必要とする人すべてが輸血を受けられるように。  
献血したことのある方もない方も、あらためてご協力をお願いします。  
血液を必要としている人はあなたのすぐそばにいるかもしれません。

## ? 献血はどこでできるの？

献血は、献血ルームや献血バスで行うことができます。  
全国の血液センターや献血ルームは、日本赤十字社ホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)に掲載しています。

## ? 献血はなぜ必要なの？

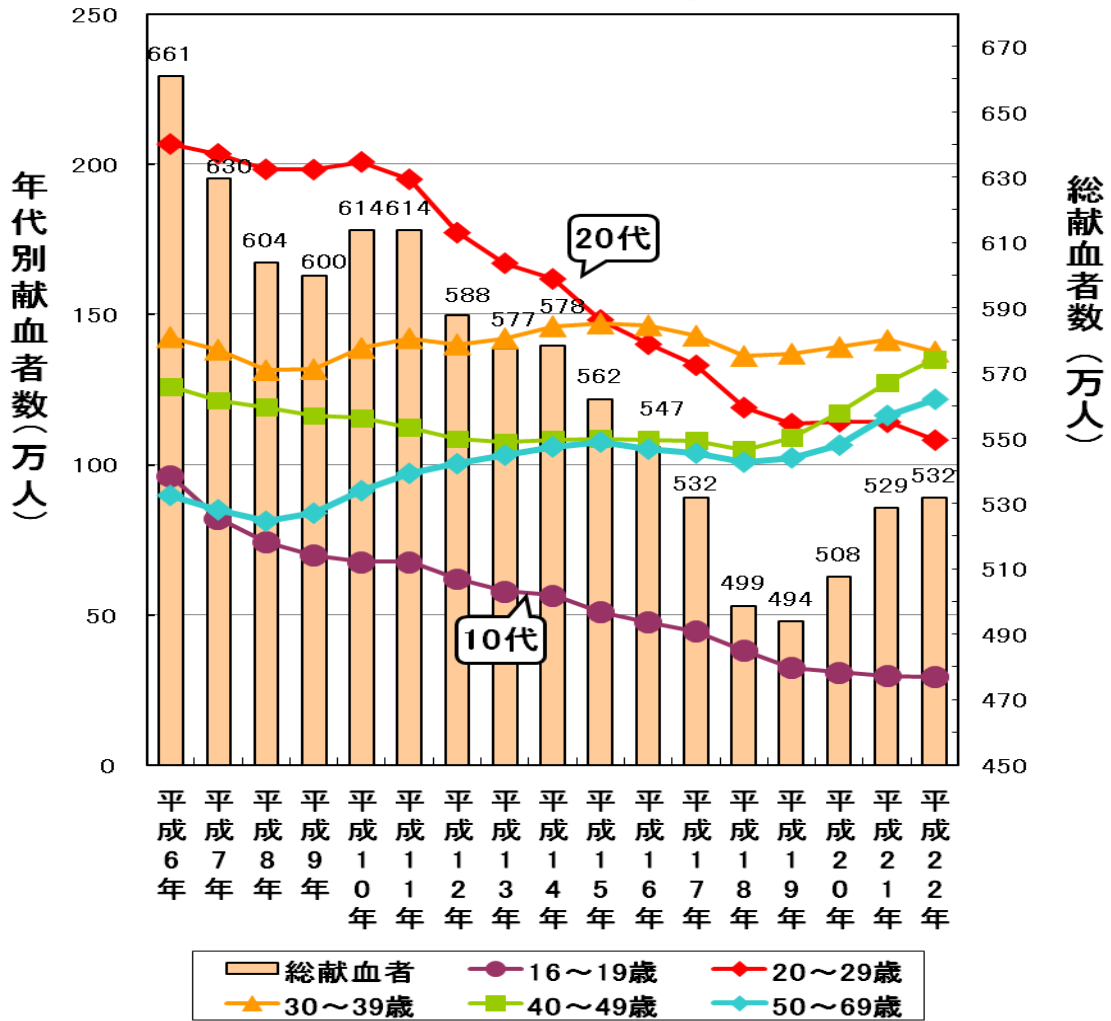
血液は様々な働きをしており、生命を維持するために不可欠のものです。そこで事故などで大量に血液が失われた人や、病気で正常な血液を造ることができなくなってしまった人には、血液を補充（輸血）することが必要になります。

しかし、医療技術の発達した現在でも、血液と全く同じ作用をもつものを人工的に作ることはできません。医療に必要な血液は私たち自身が提供するほかに確保する方法がありません。

献血は、病気やけがで血液を必要としている人のために、見返りを求めず血液を提供することです。健康な人のボランティアによって、多くの人の命が救われているのです。

# 若年層の献血者が減少しています

## 献血者の推移



現代の医療に欠くことのできない血液。  
その血液の確保が徐々に難しくなっています。

原因の一つは、若年者数自体が少子社会の影響で減少しているほか、若年人口に占める献血者の割合も減少しています。

別の原因として、血液の安全対策の強化も挙げられます。  
血液にはウイルスなど病気の原因となるものが潜んでいる可能性があり、献血の前の問診でいくつかの条件に当てはまる方については、献血をご遠慮いただいています。  
感染症についての新たな事実が明らかになるにつれ、献血をご遠慮いただかなくてはならない人が増えてきているのです。

このままでは輸血を必要とする方々に血液が届けられないという危機的な状況となる可能性もあります。

**献血はひとりひとりの思いやりによって支えられているシステム。皆様のご協力をお願いします。**